

行政視察報告書

1. 視察日時及び視察地

令和6年10月3日(木)	09:30～11:30	愛知県岡崎市	…(1)
令和6年10月4日(金)	14:00～16:00	愛知県高浜市	…(2)

2. 視察内容

- | | |
|-----------|--------------------------|
| (1)愛知県岡崎市 | QURUWA戦略について |
| (2)愛知県高浜市 | 高浜市地域交流施設『たかぴあ』の複合施設について |

3. 視察参加者

財政課	:	鵜木課長、中村参事補佐
企画政策課	:	朽網係長、富永
商工・企業誘致課	:	綾戸課長補佐
八女市議会	:	高山 まさのぶ

高山 正信

(1) QURUWA戦略について

・愛知県岡崎市概要（令和6年9月1日現在）

人 口：383,132 人 世帯数：171,118 世帯 面 積：387.20 Km²

岡崎市は愛知県中央に位置する、約38万人の中核市です。徳川家康の生誕地であり、岡崎城や八丁味噌の蔵など歴史的資産が多く、観光名所としても知られています。交通の便が良く、JR東海道本線や名鉄名古屋本線、東名高速道路が通り、名古屋や東京へのアクセスが便利です。産業面では、自動車関連の製造業が盛んで、中京工業地帯の一角を担います。また、農業や花火製造などの伝統産業も根付いています。市は自然環境の保護や歴史資産の保存に力を入れつつ、子育て支援や高齢化対策にも取り組み、家康ゆかりの地として観光振興や地域経済の活性化を図っています。

・視察概要

1. 視察の目的

- ・「QURUWA戦略」の取り組み内容とその成果を確認し、地域活性化やまちづくりの成功事例として他の自治体での応用可能性を検討する。
- ・城下町エリアの再生や歴史的資産を活かした観光・商業の発展に向けた戦略を学ぶ。

2. QURUWA戦略の概要

- ・名称の由来：QURUWAは「曲輪」（くるわ）から取られ、岡崎城を中心とする城下町の周囲（曲輪）を活かしたエリア再生計画。
- ・戦略の目的：岡崎城を中心とした歴史的エリアを再生し、観光資源と商業・居住エリアを連携させ、地域活性化と観光誘致を促進する。

3. 他地域での導入可能性と課題

- ・地域資源の活用：歴史的資産や自然環境をどのように活用しているかを参考にし、他の自治体のまちづくりに応用できる要素を検討。
- ・市民参画と協力体制：地域住民や企業の協力を得て進める方法や、イベント開催などの市民参画の取り組みを学ぶ。

4. 期待される成果と視察の学び

- ・観光と経済の活性化：歴史資産を活かした地域づくりを通じて、観光促進と経済の活性化を実現。
- ・地域コミュニティの強化：市民と行政の協力体制による地域コミュニティの活性化が期待される。

・まとめ

今回の行政視察では、QURUWA戦略の具体的な取り組みや成果について学びました。QURUWA戦略とは、城郭都市における「郭（くるわ）」の概念を活かし、歴史や文化を基盤とした都市再生を図る施策です。特に、歩行者中心のまちづくりや公共空間の活用、回遊性の向上を目的とし、地域経済や観光振興にも寄与しています。

視察先では、城下町の歴史を活かした景観整備や、広場・公園を活用したイベントの開催など、多様な取り組みが見られました。市民や観光客が快適に過ごせる環境づくりを重視し、交通規制の導入や電線地中化、サイン計画の統一などが進められています。加えて、民間企業や地域住民との協働による持続可能な運営が鍵となっており、自治体の積極的な関与が重要であることも確認できました。

今回の視察を通じ、QURUWA戦略の成功には「歴史的資源の活用」「回遊性の確保」「官民連携」が不可欠であることを再認識しました。今後の地域づくりに活かせる要素を整理し、より効果的な都市政策の立案に役立てていく必要があります。

(2) 高浜市地域交流施設『たかぴあ』の複合施設について

・愛知県高浜市概要（令和6年9月1日現在）

人 口：44,495 人 世帯数：19,007 世帯 面 積：13.0 Km²

高浜市は、愛知県の中央部、西三河地域に位置する市で、面積は約13平方キロメートルと県内で最も小さい自治体です。西側は三河湾に面し、温暖な気候と自然環境に恵まれています。

市の産業は、全国的に有名な三州瓦の生産が盛んであり、「日本一の瓦のまち」として知られています。また、自動車関連産業や物流業も発展しており、経済基盤が安定しています。

地域の特色として、市民交流や子育て支援に力を入れたまちづくりが進められており、2023年には地域交流施設「たかぴあ」が開設されました。教育環境の充実や住みやすい都市づくりにも積極的に取り組んでいます。

・視察概要

1. 視察の目的

高浜市が推進する公共施設の複合化と地域活性化の取り組みについて学ぶため、地域交流施設『たかぴあ』の整備・運営状況を視察した。特に以下の点について重点的に調査を行った。

- ・公共施設の複合化による効率的な運営手法
- ・地域交流の促進とにぎわい創出の取り組み
- ・市民サービス向上のための施設の活用方法
- ・官民連携の仕組みや財源確保の工夫

2. 施設概要

『たかぴあ』は、図書館、子育て支援センター、市民活動スペース、カフェなどを併設した複合施設であり、世代を超えた交流の場として整備された。市民が気軽に集える場として、多様な目的に対応できる空間設計が特徴である。また、環境に配慮した設備やユニバーサルデザインが採用されており、誰もが快適に利用できるよう工夫されている。

3. 視察内容

1) 施設の設計と機能

- ・各施設が緩やかに連携し、多世代が自然に交流できる構造になっている。
- ・開放的な空間設計により、市民が気軽に立ち寄れる雰囲気醸成されている。

2) 運営と管理

- ・指定管理者制度を活用し、民間事業者との連携により効率的な運営が行われている。
- ・カフェなどの民間施設を併設することで、にぎわいの創出と財源確保の両立を図っている。

3) 市民の利用状況

- ・幅広い年齢層の市民が利用しており、特に子育て世代や高齢者の利用が多い。
- ・市民活動スペースでは地域団体によるイベントや講座が活発に開催されている。

・まとめ

今回の行政視察では、高浜市の地域交流施設『たかぴあ』の整備・運営状況について学び、公共施設の複合化による地域活性化の取り組みを確認しました。『たかぴあ』は、図書館、子育て支援センター、市民活動スペース、カフェなどを併設した複合施設であり、多世代が交流できる場として整備されています。

視察では、施設の設計、運営体制、市民の利用状況について説明を受けました。特に、多機能な空間設計による利便性の向上と、指定管理者制度を活用した効率的な運営が印象的でした。また、民間事業者との連携によるカフェの運営やイベント開催など、にぎわいを創出する工夫も見られました。さらに、ユニバーサルデザインの採用により、誰もが利用しやすい環境が整えられている点も評価できます。

今回の視察を通じ、公共施設の複合化が市民サービスの向上や持続可能な運営に有効であることを実感しました。今後の地域交流施設の整備において、『たかぴあ』の事例を参考に、多世代が快適に過ごせる空間づくりや官民連携の工夫を取り入れていくことが重要だと考えます。